

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問同行員の目指す役割
演者名	高野睦
所属	医療法人財団天翁会 あいクリニック

目的

当クリニックの訪問診療は、開始当初より看護師と医師のみで、診療を行っていたが、看護師不足により、平成 21 年から訪問同行員を採用。スタッフは相談員と介護福祉士で構成。補充要員目的であったが、現在では訪問同行員が訪問診療に同行することにより、看護師は、専従業務が可能になった。一方、在宅の患者様とご家族の介護の視点でサポートできるということに新たな気づきがあった。

実践内容

訪問同行員業務の洗い出し、マニュアルを作成。定期的な訪問同行科の会議を実施し、自らの役割を認識し、同行員それぞれが統一した業務を遂行することができるよう、業務内容の確認、課題の抽出、解決案の立案、診療部カンファレンスでの提案を行うようにし、訪問診療における訪問同行員の役割の明確化をはかった。

実践効果

訪問同行員は、その業務の中で、必要とされるサービスが提供できるよう迅速に関係者に、医療的な知識を踏まえ、介護経験者のプロの視点で評価、提案し関係者へつなげることが、訪問同行員の大きな役割である。今回、自らの業務を整理し、それぞれの同行員が意識し、統一した業務を遂行することで、職種間の役割分担の見直しができた。

考察

同行員の業務は多岐にわたり、患者様、ご家族の心理的サポート、医師との仲介役などの役割も担っている。常にアンテナを張り巡らせ、「患者様とご家族らしい生活」を継続するためにどのようにサポートすべきかを考え、サービスにつなげるだけでなく、患者様の「本当の QOL」とは何かを、個性と生活像を尊重していかなければならない。今後、実際の現場から必要と感じている問題点について、関係機関と連携し整理していく必要がある。そのためにも、訪問同行員という職種を、理解していただき、訪問診療におけるチームの一員として役割を果たしていかなければと考えている。